

幼児の服装について

東京女子高等師範學校教授

成 田 順

生れて滿一歳位迄を嬰兒期と申しそれより小學校に行くまで幼稚園時代を幼兒期とし此時代の服装について考ふる所を述べて見たいと思ひます。

嬰兒期は申す迄もなく身體の保護を主として服装を考へねばなりません。幼兒期に至つては身體の保護と同時に動作の上からも注意した服でなければなりません。又幼兒の心理的方面からも顧慮してほしいのであります。近來子供服については漸次考へられて來たやうにも思はれるが一般的にはまだく注意すべき點があるやうに思はれます。

地質・色・柄について

身體の保護の上からは輕くて柔いものがよい。さうして子供のこころであるから相當汚すものとして洗濯のきく地質クリーニングの出来るものでなければならぬ。此點から夏

はギンガム・ポプリン・トブラルコ等がよろしく、冬はサーヂ・メルトン・薄手の柔かな毛織物なら適當であります。最近賣出されて居るチャージの類は子供服の地質として恰好のものに考へます。ベルベット(ビロード)は品位のある布ではあるが其手入れ保存は他のものに比し稍々面倒であるし、價格の點からも一般向ではない。色・柄についてはあまり美しく過ぎて子供の顔まげがしないもの、その服を着せるにこころなく活々として元氣さうに見えるもの、又柄が大きすぎては小さい體に調和しないから小柄な全體として目障りにならぬ上品な物を選んでほしいのであります。從來の和服の柄は子供には大きい柄大人には細かいものといふ頭があるので、洋服の時も同様に考へる人がありますが、小さい體に大きな模様では實際に柄が生きてこないのであ

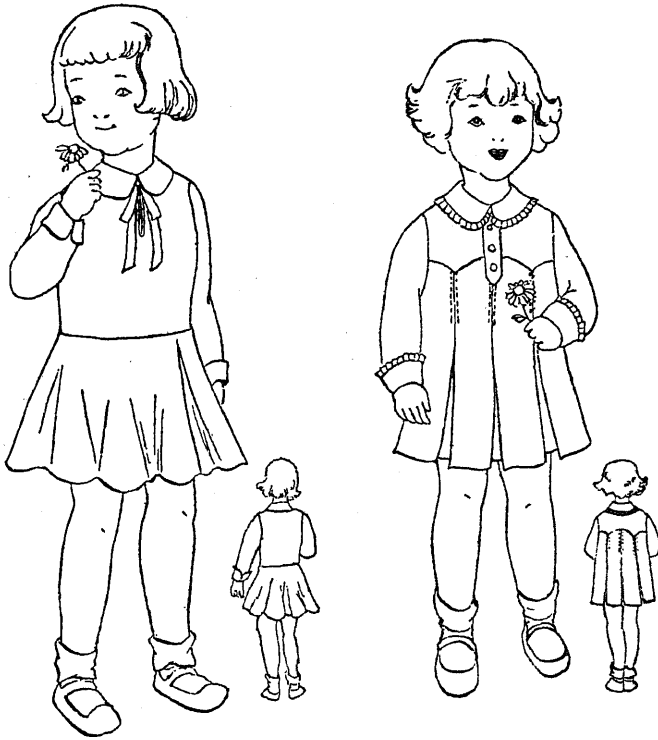
ります。色・柄についてはそのみを見て美しくいと思つても着用者即ち子供の顔の毛・皮膚の色を考へないに却つて

其の美くしい色の服を着るこゝによつて病人らしく見えたり元氣のよくない子供に見えたりするから此點特に注意すべきであります。

型について

幼児の日常生活から考へてそれに適する型であつてほしい。幼児の日常用ふる一般の服としては體の上部はきちんとした形を保ち下部はゆつたりとした形即ち裾幅が廣くて動作に便なものでなくてはなりません。上に示す二人の子供の服は最も普通な代表的のものであります。幼児期は成長の盛んなもので二年の間に胸圍は二種以上も増加し身長は六種以上も伸びるのでありますからあまり複雑な型を選ばずなるべく簡單で裁縫も手輕になし得るもの、且つ汚し易いから度々の洗濯仕上けにあまり手間のかゝらぬ簡單に處理し得る型を選びたいのであります。

子供の純潔無垢は着る物によつて飾りたて

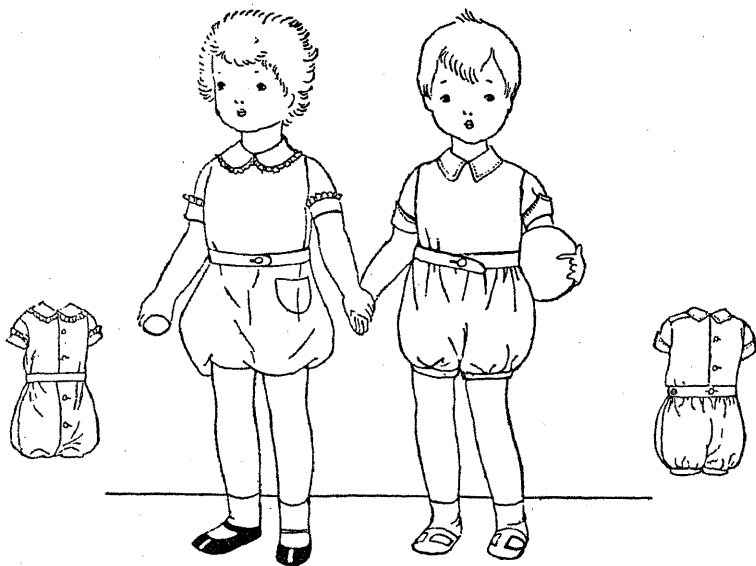


る必要はないやうに考へます。あまり裝飾の多いものは却つて着用者をそこなひ、大人を小さくした小人島の感を抱かせるものでむしろ滑稽に思はせるものであります。

殊に夏の服は最もシンプルなものでなるべく自然の中に子供を入れて育てたいのであります。それ故丈も短く裾も短く或は袖の部分はなくても差支へないかと思ひます。丈の極短い服には上着と同様の地質で作つたブルマースをはかせればよいと思ひます。

冬はなるべく室内の温度を適當にしてあまりに厚着をさせたくないのであります。何故なれば一時もぢつこしてられない子供に厚着をさせては運動が出来にくくなり各方面に及ぼす悪い影響は少くないと思ひます。此點より考慮して幼児期には軽くて暖かいもの即ち毛糸編のものが至極結構なもの考へて居ります。話は少し横道へはいりませんが要するに型としては簡單なものでよろしく決して飾りたてる必要はないと思へます。

なほ前圖に示す所のロンパースは家庭に於けるいたづら着として都合のよいものであります。



子供服に對する一般の考へについて

我が國從來の習慣として子供を非常に大切に取扱ひ食事から服装に至る迄何くれこ心を配り子寶きて何はさておいても子供のこころを考へるのは親の愛情として實に美くしい所であります。しかし時には其度が過ぎて子供を玩具扱ひこし徒らに美衣美食をなさしめて却つて子供を害ふものも少くないのではありますまいか。一般的に子供の服は如何に作られなければならぬか、購入するにせよ如何なる物を選ぶべきかなどの考へをもつてゐる人は遺憾ながら多くはないと思ひます。最近子供服に對する考へ方が餘程進んで來たやうには思はれますけれどもデパートあたりの子供服を見ては依然として飾り立て時には陳列品の貳拾圓もする服に赤い豫約の札が貳拾も參拾もついてゐるのであります。子供が其服を着て一度外でボール遊びでもしたならば早速に其手入に困るであらうと思はれるものに我も我もこ註文する親達の氣がわからないのであります。今少し子供の生活を見つめて子供に適する服の理想をもつてほしいと思ひます。

なほ衛生の方面から一言したのであります。洋服は非常に經濟的で一度かつて着ればそれが破れる迄手入をしなくてもよいかのやうに考へてゐる人も時々あるのであります。和服のやうに始終縫ひかへしは致さない迄も汚れたならば直ちに洗濯をなし物によつては糊をつけて火熨斗をかけいつもきちんとした服装をさせることは將來の紳士淑女としての大切な躰であります。木綿の物で結構ですから常に垢のつかない皺のゝびた服を着せてほしいと思ひます。

何事も習慣でありますが子供の冬の洋装を見るに氣の毒な程厚着をして居るのを見受けます。寒さの爲風邪にかゝらぬやうにこの注意ではありませうがあまりに重ねすぎると少しの運動の爲汗をかき却つて風邪をひく子供もありません。子供は活動性に富んで居るので大人の考へる程寒さを感じるものではありませんから、幼時よりなるべく薄着の習慣をつけるやうに注意を願ひたいのであります。